野球部“データ班”が読売新聞に掲載されました！

今年度から新設した本校野球部のデータ班が読売新聞から取材を受け、産業デザイン科２年 竹内理乃さん、情報技術科１年 竹内強太さん姉弟の記事が掲載されました。

２人は日南から通い、通学に時間がかかることから野球部に入ることを諦めかけていましたが、部顧問の誘いもあり、データ班というポジションで記録や分析に取り組んでいます。今後の野球部での活躍に期待しています。

読売新聞　（第3種郵便物認可）

夏にかける 2023 ㊤

高校野球県大会

「データ班」創設 姉弟活躍

佐土原　相手校分析 新たな戦力

県立佐土原（宮崎市）の野球部は5月、昨年も試合で対戦した県内の学校との公式戦に臨んでいた。捕手の岩切滉平主将（3年）は、チームメートの「データ班」の部員2人が関わって試合前にまとめられた相手校の打者のデータを頭に入れ、この試合に出場していた。

データは相手打者一人一人の得意とみられる球種や、逆に苦手とみられる球種、コースなどを分析してまとめられている。試合中盤、昨年対戦した際に打たれた打者に打席が回ってきた。得点圏に走者もいる。

「打たれるわけにはいかない」。試合前に目を通したデータ通りに、相手打者の弱点とみられる球種とコースへの投球を投手に求めた。要求通りの球がきて、打者が放った打球は内野ゴロとなり、アウトにしてピンチを切り抜けられた。

「事前にデータがあることで相手の傾向などがわかり、安心して試合に臨めた」。岩切主将は感謝する。

同校の野球部に県内でも珍しいとみられる専属の「データ班」が新設されたのは今年春だ。2年の竹内理乃さん(17)、1年の強太さん(15)の姉弟2人が班員として活動している。

理乃さんと強太さんは通学に列車などで約2時間かかる日南市に住んでいる。理乃さんは広告デザインに携わる仕事に、強太さんは情報を扱う仕事に就きたいとの思いがあり、産業デザインなどの学科がある佐土原に入学した。

2人とも中学まで野球部に所属し、高校でも野球に関わりたいと思っていたが、通学に時間がかかるため難しいと考えていた。1年前に入学した理乃さんは野球部に入部していなかった。

今年4月、入学した強太さんが友人に誘われて野球部の見学に訪れると、冨永圭太部長(32)から「データ班を創設するから入部しないか」と誘われた。練習に毎回参加できなくてもいいという。強太さんからその話を聞いた理乃さんも賛同し、2人で今春、野球部に入り、データ班員となった。

データ班の2人の仕事は、試合の記録からチームメートの打率や防御率などの個人成績を算出するほか、他校の試合の映像などを見て、他校の投手の球種やコース、打者の打球方向のデータ抽出などを行うこと。集まったデータは冨永部長が見やすく加工するなどし、印刷して選手らが見ることができるようになっている。

2人が練習に顔を出すのは週2、3回。2人は自宅にも試合の記録などを持ち帰り、空いた時間にデータ入力などを行っている。

データ班を発案した冨永部長は元々、データ分析に関心があった。「通学に時間がかかるなどの理由で選手として入部するのは難しいが、野球に携わりたい生徒もいる。そうした生徒をデータを分析する戦力として取り込めないか」と思ってきたという。スポーツへの関わり方は多様であっていいとも考えていた。

理乃さんは「投手の投げるコースや配球などの情報を取るのが難しく、正確に記録できるようにしたい」と話す。強太さんは「データのおかげで勝てたと言われるよう、相手の癖などを伝えられるようにしたい」と意気込んでいる。

データ班としてチームを支える（左から）竹内理乃さん、強太さん（佐土原高で）

2023年7月5日　読売新聞